

第八八表 男女總人口並に男女比率表（一八八一年—一九三八年、いづれも十二月現在）

年 度	男 子 数	女 子 数	計	女子一〇〇に對する男子の割合
一八八一	一、二四七、〇五九	一、〇五九、六七七	二、三〇六、七三六	一一七・五
一八九一	一、七三六、六一七	一、五〇四、三六八	三、二四〇、九八五	一一五・三
一九〇一	二、〇〇四、八三六	一、八二〇、〇七七	三、八二四、九一三	一一〇・一
一九一	二、三八二、二三二	二、一九一、五五四	四、五七三、七八六	一〇八・七
一九二	二、七九九、四六二	二、七一、五三二	五、五一〇、九九四	一〇三・二
一九三	三、三三二、五七七	三、二二〇、〇二九	六、五五二、六〇六	一〇三・四
一九三	三、四〇一、〇七九	三、三〇四、五九八	六、七〇五、六七七	一〇二・九
一九三八	三、五〇四、四一八	三、四二五、二七三	六、九二九、六九一	一〇二・三

人口の都會集中特に甚し 近年、何れの國に於いても人口の都會集中の傾向はあるが、この傾向は濠洲に於いては殊に顯著である。濠洲全人口のほぼ半分の約三、二五五、二〇〇人が各州の首都に集中し、殘餘は殆んど全部といつてもよいくらゐるに東南部と南部の地味肥沃で氣候温和な地に散在してをり、北部地域や奥地に住んでゐる數は極めて微々たるものであるから、少くて二億、多くて四億の人口を養ひ得る未開發の資源を有する廣大な地域が無人の境であることは容易に想像される。試みに六首都の人口を示せば左の通りである。

第八八表 各州首都人口表（一九三八年）

首 都 名	人 口	首 都 名	人 口
シドニー	一、二八八、七二〇	アデレード	三二一、四一〇
メルボルン	一、〇三五、六〇〇	パース	二二〇、三三〇
ブリスベン	三二五、八九〇	ホバート	六三、二五〇

濠洲人口の要素 現在の濠洲總人口の九割九分二厘が純ヨーロッパ人であつて、國籍別に見ると九割九分一厘までが英帝國臣民であるが、この英國臣民中には印度人、マライ人等も含まれてをり、また他のヨーロッパ人で歸化したものも入つてゐるから總てが純英國人系であるとは云へないが、これらの殆んど九割七分以上は濠洲、英本國、ニュージーランド、カナダで出生したものである。就中大部分は濠洲で生れたもので、その他の英帝國領土で生れたものは僅少である。しかしそのうち一割くらゐはその兩親または祖父母が外國人であつたものと思はれるから、純粹の英國人系は九割内外と見るのが至當であらう。

第八九表 濠洲の人口要素表（原住民を除く）

一九二一年

	男	女	名 計
英國人系	二、七二二、一五二	二、六六五、〇五三	五、三八七、二〇五
イタリア人	三、九八四	九一九	四、九〇三
人 口			三八一

支那 人	一九三三年		増減(1)
	男	女	
支那人	一三、六一四	一、〇一七	一三、七九
ドイッ人	二、五三八	七三七	二、五五五
アメリカ人	二、五二〇	一五〇	三、二五七
日本人	二、四八九	一五〇	二、六三九
ロシア人	一、六五五	六六二	二、三二七
フランス人	一、二二一	八六七	二、〇八八
スエーデン人	一、三九九	八〇	一、四七八
オランダ人	一、四三〇	一八七	一、六一七
外国人合計	三九、〇六七	六、六八七	四五、七五四
無国籍人	一、六五一	一、一二四	二、七七五
總計	二、七六二、八七〇	二、六七二、八六四	五、四三五、七三四

日本人	一九三三年		増減(1)
	男	女	
日本人	一、九三七	一四七	五五五
ロシア人	一、二八三	七七二	二、〇五五
フランス人	九二四	七二三	一、六四七
スエーデン人	一、二七四	九六	一、三七〇
オランダ人	七八六	一二九	九一五
外国人合計	四八、八四二	一、四一七	六〇、二五九
無国籍人	四一	二一	六二(1)
總計	三、三六七、一一一	三、二六二、七二八	一、一九四、一〇五

第二節 人口の密度と増加状態

人口の密度 人口の一平方哩當りは、日本にあつては二八六人であるのに濠洲では僅二か・三三人で、最も人口稠密なヴィクトリア州でも二二人餘であるから、全體から云へば濠洲は文明國中最も人口が稀薄な國の一つである。

第九〇表 各州人口密度表(原住民を除く、一九三八年末、一平方哩當り)

州名	密度	州名	密度
ヴィクトリア	二一・三二	聯邦首都地域	一二・二〇
タスマニア	九・二一	西オーストラリア	〇・四七

濠洲の資源と植民問題

三八四

ニュー・サウス・ウェールズ
南オーストラリア
クインズランド

八・八四
一・五七
一・五〇

北部地域
平均

〇・一一
二・三三

増加状態 濠洲の人口増加の原因は移民による増加と自然増加とによるのであるが、大體には移民による増加が最大の特色である。

第九一表 濠洲人口増加状態表（各年十二月末現在数、原住民を除く）

年 度	人 口	年 度	人 口	年 度	人 口
一七八八	八五九	一八六〇	一、一四五、五八五	一九三一	六、五五二、六〇六
一七九〇	二、〇五六	一八七〇	一、六四七、七五六	一九三二	六、六〇三、七八五
一八〇〇	五、二一七	一八八〇	二、二三一、五三一	一九三三	六、六五六、一五一
一八一〇	一一、五六六	一八九〇	三、一五一、三五五	一九三四	六、七〇五、六七七
一八二〇	三三、五四三	一九〇〇	三、七六五、三三九	一九三五	六、七五三、一一四
一八三〇	七〇、〇三九	一九一〇	四、四二五、〇八三	一九三六	六、八〇六、七五二
一八四〇	一九〇、四〇八	一九二〇	五、四一一、三九七	一九三七	六、八六六、五九〇
一八五〇	四〇五、三五六	一九三〇	六、五〇〇、〇七五	一九三八	六、九二九、六九一

要するに濠洲の人口の増加率は極めて微々たるもので、三十五年前の一九〇六年には約四、一二〇、〇〇〇であつたのが現今漸く約七、〇〇〇、〇〇〇となつたのであるから、一年に平均五一、四〇〇人の増加に過ぎない。

しかも大東亞戦争前に於いて濠洲の人口の自然増加は減退の傾向を示してゐたので、これが當局の頭痛の種となつてゐて、移民問題を絶えず俎上に上すと同時にまた自然増加を促進するため、出産奨励策として一子を生む毎に母親に保養費として五磅の金を支給したり、その他醫療等の點に於いても便宜を與へてゐた。

濠洲人は皆、濠洲が焦眉の急を要するものは人口の増加、殊に自然増加であることを充分に承知してゐながらも、彼等は自己の享樂を犠牲にすることを欲せず、人口の自然増加を計らうとはしないのである。

人口の自然増加は一九一四年が最高潮で、一、〇〇〇人につき一七・四四であつたが、一九二一年には一五に減じ、以來減退の一路を辿るばかりで、一九三五年には七・一に減退した。しかし次の二ヶ年には少し恢復して一九三六年には七・七に、一九三七年には八・〇に増加したが、一九三八年にはまた七・八三に減じた。かく人口の自然増加は一進一退を繰り返してゐて、着々たる増加率を示してゐない状態であるので、當局は人口の自然増加が現状のままであり移民の増加がない場合には、三十五年目には濠洲の人口は減少し始めるだらうと憂慮してゐた。

人口の自然増加減退の原因 濠洲の人口の自然増加の減退はそもそも何に基因するのであらうか。まづその死亡率と乳兒死亡率から見るに、次表に示す如く世界の主要國中、その少い點に於いて前者は第三位、後者は第二位であるから、この點からでないことは明かである。

人 口

三八五

第九二表 世界主要國の死亡率表

國名	期	間(五年)	千人に對する平均死亡率	國名	期	間(五年)	千人に對する平均死亡率
オランダ	一九三五—三九年		八・七	アルゼンチン	同		一一・一
ニュージーランド	同		九・〇	ベルギー	一九三四—三八年		一二・八
濠洲	同		九・六	フィンランド	同		一三・一
カナダ	同		九・八	スコットランド	一九三五—三九年		一三・二
南阿聯邦	同		九・八	イタリア	同		一三・八
ノールウェー	同		一〇・二	ポーランド	一九三四—三八年		一四・〇
デンマーク	同		一〇・六	ギリシヤ	同		一四・七
アメリカ	同		一一・〇	フランス	一九三五—三九年		一五・六
スイス	同		一一・六	ポルトガル	同		一六・一
スウェーデン	同		一一・七	スペイン	一九三四—三八年		一六・六
ドイツ	同		一一・九	日本	同		一七・四
イングランド及ウェールズ	同		一二・〇	チリ	一九三五—三九年		二四・七

第九三表 世界主要國の乳兒死亡率表

國名	期	間(五年)	千人の出生に對する死亡率平均	國名	期	間(五年)	千人の出生に對する死亡率平均
ニュージーランド	一九三五—三九年		三二	フィンランド	一九三三—三七年		七〇
濠洲	同		三九	カナダ	一九三四—三八年		七〇
オランダ	一九三四—三八年		三九	スコットランド	同		七七
ノールウェー	一九三三—三七年		四三	ベルギー	同		七七
スウェーデン	一九三四—三八年		四五	イタリア	同		一〇二
スイス	同		四六	スペイン	一九三一—三五年		一一二
アメリカ	同		五六	日本	同		一一五
イングランド及ウェールズ	同		五七	ギリシヤ	同		一一七
南阿聯邦	同		五八	ポーランド	一九三四—三八年		一三七
ドイツ	同		六五	ポルトガル	一九三三—三七年		一四七
フランス	同		六七	エジプト	同		一六三
デンマーク	同		六七	チリ	一九三四—三八年		二四八

即ち濠洲人口の自然増加の遞減は結婚率と出生率の減少に基因するのである。この點は大東亞の盟主として發
展途上にあるわれわれ日本人が他山の石として警戒すべき點であつて、また乳兒死亡率數の低率は大に學ぶべき
點である。

第三節 原住民及び其他有色民族人口

原住民の人口 濠洲の先住者であつた世界中の最原始的民族に属する黒色人種の原住民は、純血者が濠洲全土を通じて約五萬五千の僅少な數で、それも白人の居住出来ない北部や奥地にカンガルやエミューと一緒に追ひ込まれ、その數は年々減少し、遠からず絶滅するの運命に陥つてゐる。植民の當初、イギリス移民はさまざまに殘虐手段によつて無辜の彼等を迫害殺戮してその土地を奪ひ、近年になつて種族保存のために原住民保護に乗り出したのであつたが、時既に遅しであつた。

原住民の大部分は西オーストラリア州、クインズランド州、ニュー・サウス・ウェールズ州の熱い地域と北部地域に、今なほ放浪生活を送つてゐる者が多い。

一九三八年末の調査によると純血の者約五萬五千人、混血者二萬一千餘、合計七萬六千余となつてゐるが、勿論、原住民の人口調査は頗る困難であるから、これは正確な數とは云へない。

第九三表 原住民人口内譯表（一九三八年）

純血原住民	被備者	蕃舍居住者	其他	計
放浪者	被備者	蕃舍居住者	其他	計
三、五四八	八、七六六	一〇、七四五	三、七八九	五四、八四八
混血原住民	被備者	蕃舍居住者	其他	計
放浪者	被備者	蕃舍居住者	其他	計
二、九一八	三、九七九	七、一四五	七、六九五	二一、七三七
總計	七六、五八五			

純血者は西オーストラリア州の西北部並に北部、クインズランド州の北部並に西部に多く、混血者はニュー・サウス・ウェールズ州、クインズランド州及び西オーストラリア州に多い。

日本人、中國人及びその他の有色人 今から四十年程前の一九〇〇年頃には三〇、〇〇〇人ばかりの中國人が主にニュー・サウス・ウェールズ州、クインズランド州、ヴィクトリア州及び北部地域に居住し、日本人は三、五〇〇人、印度人及びセイロン人は四、六〇〇人ばかりだったが、聯邦政府が白濠主義の政策を採用して有色人種の入國をこれ以上許さないことになつたので、その數は非常に減少した。現今中國人はシドニーやメルボルンの如き大都會の一隅にある支那人街に少數居住してゐると、野菜栽培と行商に従事してゐるものが極く僅少である。

移民法發布以前に入國した日本人は大部分洗濯屋として働き、日本人洗濯屋と云へば日本人の通稱となつてゐたほどで、この職業に於いては白人洗濯屋よりは遙かに評判がよかつた。しかしアジア人には労働を許さないのだから洗濯物を集配するのは白人であつた。一九〇一年の移民法實施以後は日本人労働者は一切入國を禁じられてゐたので、その數は次第に減少してゐた。ただ潜水事業は日本人が最も優れ白人には至難なので、日本人潜水夫が濠洲の入口の木曜島や、西オーストラリア州のフリーマントルや、ブルームや、北部地域のダーウイン附近に數百名ゐて眞珠貝採取に従事してゐるが、これら日本人とても濠洲本土へ入ることは絶対に許されなかつたのである。

南洋諸島の原住民やその他の有色人種をまぜて、一九〇六年には一五、〇〇〇人ばかりが、主にクインズラン

ド州にゐるが、これら有色人の入國を制限し、在來るた多數の者は一九〇七年の中頃にそれぞれの本國へ送還された。

第四章 濠洲産業の將來展望

第一節 地理的相似地方の相互關係

世界各地の氣候比較 世界各地の氣候に影響を及ぼす要素は或程度赤道附近では均等であり、大陸の位置と形に於ても一定の排置が見られるのであるから、地球を中心とした兩側の同緯度の地方に於てのみならず、殆んど同じ距離の地方に於ても或程度氣候が同じであるべきである。

世界の沙漠と貿易風の間顯著な關係のあることは既に定説となつてゐる。世界の多雨地方の同様な排置も亦見られるところである。

南北兩半球に西風地方があつて、南緯四〇度に於てはこの風は絶えず吹いてをり、北緯四五度に於ては左程規則的には吹いてゐない。この氣流を基として南半球には確定した多雨地域がある。南部チリ、濠洲のタスマニア、ニュージーランドの南島が即ちそれである。北半球にては英領コロビアとアイルランドとが同じ状態にある。諸大陸の東部海岸には氣候が非常によく似てゐる可なり降雨量のある前者よりも餘程乾いた地方がある。南半球に於てはウルガイ、ネーター、濠洲ニュー・サウス・ウエールズ州がそれであり、北半球に於てはアメリカ合

衆國及び支那の東部諸州がそれである。

氣候及び位置の相似地方と産物 氣候と位置の相似は住民の生活と産業とに反應するところ必然であるから、この問題の研究はその地理上相似せる地方の一般的企劃の根柢をなし、需要供給を取扱ふ經濟學の部門に關聯して吾人を助くるところ甚しかるべきである。

この相似地方中の何れの地方の産物もその餘の他地方の産物であり、未だその地に生産されてゐないものでもそこに移入すれば將來恐らく繁榮せる産物となるであらう。例へば支那は絹と茶を、アメリカは棉花を生産してゐるのに、ニュー・サウス・ウエールズ州は現在これ等何れの産物についても未だ經驗時代の域を脱しない。しかし、勞働問題を別としては、同州中の或地方に於ては、これ等の産物が生産されて成功を収め得ないといふ地理學上の理由は毫も存在しないのである。

この線に沿うての研究はハーバートソン博士によつて適當に完成されてゐる。

同博士の案によれば、濠洲は氣候學上左の六地方に區分され得る。

- 一、大草原地域
- 二、沙漠地域
- 三、東部地域
- 四、河川地域
- 五、ヴィクトリア州地域

濠洲産業の將來展望

六、タスマニア州地域

一、大草原地域

熱帯地方と赤道との間に位する可なり高まつて樹木が散在してゐる地方であつて、氣候は酷暑で濕氣が多い。従つて白人農業には適しない。濠洲のこの地域では鑛業以外では牧牛と甘蔗栽培だけが唯一の大産業である。これと相似地方は北アフリカのスーダンと南部ブラジルである。スーダンと南部ブラジルでは米、砂糖、煙草、ゴム、棉花等が多量に生産されてをり、その他のものも多少生産されてゐるから、これ等の産物は濠洲のこの地域でも恐らく右兩地方と同様に榮へることだらう。

二、沙漠即ち乾燥地域

濠洲では沙漠地域の周縁は牧場として使用されてゐて、所謂「沙漠中の綠地」がところどころにあり、マクドネル山脈附近では殊にさうである。サハラ、カラハリ、アタカマ、アラビア、アリゾナ等濠洲以外の沙漠地域では住民は散在してゐて、人工給水設備によつて辛うじて旅行通路を保持してゐる文化しか發達してゐない。しかし濠洲のクールゲーディーや南米チリーのアタカマ等の如く、鑛物が豊富に産出する地域では大居住地が發達する日が來ないとも限らない。

三、東部地域

この地域はニュー・サウス・ウェールズ州と南部クインズランド州の東部及び中部を含み、華氏四五度乃至七〇度の温和な氣候を有してゐるのがその特徴である。適當な降雨があり、しかもそれが大抵夏季にある。雨量は

海岸からの距離に従つて二〇インチから七〇インチまでの差異がある。この地域は濠洲でも特に優れた農牧地域で酪農業と農業とが専ら行はれてゐる。これと相似地方は、冬季はこの地域よりも餘程寒くはあるが、支那と東部アフリカである。従つてこの東部高地では酪農品と農産品以外に絹、棉花及び茶が將來農産物としての可能性があるものと見てよからう。

四、河川地域

マレー河及びその大支流即ちラクラン河、マランビジー河等の低い部分によつて灌漑されてゐるニュー・サウス・ウェールズ州の西部地方を普通河川地域と呼んでゐる。この地域は内陸低地であつて氣候は温和で乾燥してゐる羊毛と小麦の生産に非常に優れてゐる。(ここでは河川地域といふ名は代表地域として用ひ、廣くニュー・サウス・ウェールズ州の西部平野とクインズランド州の西南部を含む。)

これと相似の地方は北米の草原、南米の大草原(アマゾン河以南の地方にある大草原)及び南部シベリアの平原である。これ等の地方も亦小麦大耕作地で、その點では濠洲よりも優位にある。しかし濠洲の河川地域に於ける羊毛生産は恐らく世界に冠たるものであらう。

五、ウイクトリ地域

この地域は濠洲の南部にあつてその氣候は温和であるが、前者よりは幾分寒い。この地域に於ける最大の降雨期は冬季である。この時期には太陽が北に移動し續いて一般の風系が起るので、濠洲南部は夏季に大陸の南部を吹く濕氣を含んだ西風の影響を蒙ることが一層多い。これと相似の地方は地中海沿岸、南所のケーブ・タウン等

である。これ等の地方は濠洲と同様に、葡萄、オリヅ、牛、小麦等の生産に優れてゐる。南北両半球に於けるこれ等の相似地方の産物は同じであるがその收穫季節は正反對であるので、人口少ない南半球の生産地から人口夥多の北半球への供給問題に關聯して重要性が次第に増してゐる事實は特に注意すべき點である。

六、タスマニア地域

この地域は寒冷な温帯氣候を有し降雨多く降雪を見ることも珍らしくない。この地域の主産物は果物、羊及び材木等である。これと相似地方はニュージーランド、西部ヨーロッパ、英領コロンビア、南部チリ等で、わが北海道や東北地方も稍々これに類する。これ等相似地方の海が漁業に適してゐることは注目すべき事實であつて濠洲に於ても漁業發展の將來性は多大である。

第二節 將來の産業發展地考察

濠洲に於ける環境と産業の相互關係を述べ終つたので同國將來の産業發展地を少しく考察して見よう。

豊富なる鑛石がいつ何處で發見されるかは誰も豫言は出来ないが、濠洲の未開地に第二、第三のバララット金山やカルグーアリー金山が發見されないとはいふ以上には鑛石については何も豫言は出来ないから、われわれはわれわれの注意を農業と牧畜の方面に向けて見よう。

牧畜業は、この語の嚴密な意味に於いて、人口稠密な繁榮地の發祥を導くものとは云へないから、人口稠密な

繁榮地は氣候が一般農業に適する地方に多少限られてゐる。つまり從來人間が實際に都邑を建設し、確乎たる基礎を築いた在來の社會と相似地方に限られてゐると云はざるを得ない。

まづ比較對照の眼をアメリカ合衆國に向けるのが最も適當であらうと思ふ。北アメリカは最初イギリス人が移住し、後ヨーロッパの各民族と少數のアジア民族が移住した點が濠洲と相似してをり、緯度に於いても米濠兩國は稍々同じであり、不思議にも兩國の面積もほぼ同じである。即ちアメリカ合衆國の面積はアラスカを除いて二、九七〇、二三〇平方哩であり、濠洲の面積は二、九七四、五八一平方哩である。

しかし濠洲の一大缺點は致命的要素たる水に恵まれてゐないことである。アメリカ合衆國では總面積の僅か十分の一が年雨量一〇インチ以下の地域であるのに、濠洲では全土の四割二分即ち一、〇〇〇、〇〇〇平方哩ばかりが乾燥地帯である(第二三圖参照)

濠洲の發達についての最も有望な様相の一つは、濠洲人が濠洲の面積の大部分が乾燥地帯であるといふ事實を直視して決然たる處置を講じてゐることである。この認識から既に好結果を生んでゐることが指摘し得られる。ニュー・サウス・ウェールズ州、ヴィクトリア州、西オーストラリア州に於いて大規模の給水設備が整ふてゐること、主要な牧畜地に通ずる鐵道を延長して、旱魃時に羊を好適な地に移動さす方法が講じられてゐること等が即ちそれである。

しかし降雨が鑛業以外の總ての産業に缺くべからざる主要素であることは衆知の事實である。しかるに西オーストラリア州の總面積九七五、九二〇平方哩のうちで、僅に約一割七分が農業に必要な年降雨量(二〇インチ以



第二三圖 將來産業發達可能地域

- 一〇インチ等雨線内、大砂漠地にして無用地域
- ▨ 牧畜地域、人口稠密な居住地に不適當
- ▩ 既に産業發達し人口稠密な地域
- 既に居住地となり居れども未だ居住の餘地ある地域
- ▧ 現在人口稀薄で將來人口稠密な居住地に可能地域
- ▦ 一部居住民ある熱帯地域

上)を有してゐるのであつて、しかもこの地域(極僅かではあるが、英本國の面積よりは大きい)のうち五分の四が熱帯地域なのである。

濠洲は過去一世紀半、徐々にではあるが着々と進歩してゐるにも拘らず、居住地が今なほ一定地域のみに限られてゐるのは降雨と關係するところが頗る多い。第二三圖中の界線と點線の部分とだけで、その他の廣汎な地域に散在してゐる合計人口以上のものを含み、この地域のみが一平方哩に一人以上の人口を有する地域である。

濠洲に於いて比較的居住民の多い地方は三、四の例外を除いては全部

二〇インチ等雨線外にある。大陸の大部分の約四割は不規則に來る雨季に於いてのみ、大牧場經營によつて兎年の困難を切り抜ける遊放的牧畜業が可能なのである。

實際、西北岬から大陸の中心部を横切つて殆んどクロンカリーまで及び、そこから更にまた南の方パークマレー河口の方へ曲つてゐる一〇インチ等雨線では何が期待出来るであらうか。この線の南と西の全部に於いて僅に西部の二つの廣い海岸地域(バースとビルバラ)と、南部の南オーストラリア州諸灣の周圍の海岸地域とを除いては利益ある牧畜地或は農業地を開拓することは出来ないのである。

温度もまた産業開發の重要要素であることはいふまでもない。試みにアメリカ合衆國と對照して見よう。

アメリカでは華氏六八度の線はニュー・オーリアンズとフロリダの丁度北を通過してゐる。これ等の地方では白人(殊にイギリス人及び北歐人)は戶外で繼續して勞働に従事するに適してゐないことが認められてゐる。濠洲に於いては六八度等温線は南回歸線の南を通過してゐる。(六八度の等温線は北緯ではほぼ三三度、南緯では二六度にある。これは南半球は概して北半球の同緯度よりも餘程温度の低いことを示す。)それで南回歸線を濠洲に於けるイギリス人及び北歐人の居住に最も好適な地域の北部限界と見てよからう。しかるに「白濠主義」は有色人のみならず南歐人即ち濠洲人の所謂「デイゴウ」(皮膚の稍々黒いイタリア人、スペイン人ポルトガル人等)の移住をも排斥してゐるのである。

白人(殊にイギリス人)農夫が居住に利用し得べき地域を表示すれば左の通りである。

第九四表 白人居住に適する地域表（単位平方哩、年雨量二〇インチ以上の温帯地域）

州名	面積	州名	面積
ニュー・サウス・ウェールズ	一一三、〇〇〇	タスマニア	二六、〇〇〇
クインズランド	八〇、〇〇〇	南オーストラリア	一五、〇〇〇
ヴィクトリア	五二、〇〇〇	計	三一九、〇〇〇
西オーストラリア	三三、〇〇〇		

右表中には高低ある荒蕪地も樹木鬱蒼と繁茂せる地方も含まれてゐるが、かかる地域の開拓が遅れるのは當然である。

この地域をアメリカの同じ条件下にある地域と比較し、アメリカの發達と濠洲の將來の發展とを考察して見よう。

一八〇〇年代にはアメリカの人口は濠洲の現在の人口とほぼ同じの七、〇〇〇、〇〇〇であつたが、過去一世紀半にアメリカは急激に發展して一四〇、〇〇〇、〇〇〇の人口に増加した。しかもこの増加人口の分布は降雨に支配されるところが非常に多かつた。二〇インチ等兩線はアメリカを各自約一、五〇〇、〇〇〇平方哩の同面積に二分してゐる。西部の半分には全人口の僅七分しか分布してゐないのに、東部の半分には殘餘の九割三分の人間が居住してゐる。

既に述べた如く、濠洲では水に恵まれた温帯地域は約四〇〇、〇〇〇平方哩即ちアメリカの同様な地域の四分

の一であるから、アメリカと同じ割合の増加がありとすれば、今後一世紀半の間に濠洲の白人人口は約三〇、〇〇〇、〇〇〇となるべき勘定である。しかも濠洲の熱帯部に於ける肥沃で相當水に恵まれた地方の廣大な地域の確實な價值が認識されたならもつと大きな人口を擁することが出来る筈である。しかし有色人労働を使用せざれば、棉花、米、麥、茶、コーヒー、煙草、ゴム等の熱帯作物を栽培して大利益をあげることにはよし政府の補助金があつても至難である。しかもこの地域ではこれ等の産物が最もよく栽培され得るのである。

第九五表 年雨量二〇インチ以上の全地域表（単位平方哩）

州名	面積	州名	面積
クインズランド	二八〇、〇〇〇	ヴィクトリア	五二、〇〇〇
南オーストラリア	二一五、〇〇〇	タスマニア	二六、〇〇〇
西オーストラリア	一五〇、〇〇〇	計	八三六、〇〇〇
ニュー・サウス・ウェールズ	一一三、〇〇〇		

こんな状態であるから、第九四表で示した如くニュー・サウス・ウェールズ州が最も將來の發展性があり、それに續いてクインズランド州が第二位であるが、熱帯地域が大東亞民族活躍の舞臺となつた暁にはクインズランド州が最も恵まれた位置を占め、南オーストラリア州は最後の順位から一躍第二位に進むであらう。

濠洲はその將來の富を牧畜地域によらなければならぬことは明瞭であるが、東南部に於ける居住民多き地方は既に牧畜産物の供給過多の状態にある。しかし北部と西部にはまだまだ擴張すべき餘地が大に残されてゐる。

羊は温帯地域に最もよく適するが、牛は極北の熱帯地域でも盛んに繁殖するから将来甚しくその數を増すであらうことは確實である。

第九六表 牧畜適地表(單位平方哩)

州名	A雨量一〇—二〇 インチの良好地	B良好な季節の み有用な乾燥地	C雨量二〇イン チ以上の熱帯地	D計	E現在使用地域
西オーストラリア	二六五、〇〇〇	二三〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	六一五、〇〇〇	二三〇、〇〇〇
クインズランド	二三〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	五九〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
南オーストラリア	一八五、〇〇〇	一〇六、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	四九一、〇〇〇	二九〇、〇〇〇
ニュー・サウス・ウエールズ	一一三、〇〇〇	八四、〇〇〇	—	一九七、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
ヴァイクトリア	三六、〇〇〇	—	—	三六、〇〇〇	五〇、〇〇〇
タスマニア	—	—	—	—	七、〇〇〇
計	八二九、〇〇〇	五八〇、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	一、九二九、〇〇〇	一、〇二七、〇〇〇

新らしい地域を開發するに當つては牧羊や牧牛のやうな開拓産業が他日もつと有用な産業に使用されるに至るだらう土地を占有するのは明かである。これは第九六表の(C)と(E)の欄に與へられた水利のよい地域の多くに適用される。例へば現在タスマニア州に於ける牧羊地の大部分は將來農園と果樹園に變更される可能性が濃厚である。

濠洲には農業及びそれに類する産業を發達さすに可能な氣候を有する地域が英本國に於ける同様な條件下にあ

る地域の約三倍(三二〇、〇〇〇平方哩)ある。しかるにこの地域の人口が未だ稀薄であるのは、この地域中には岩石が多くて不毛な地域が含まれてゐるからである。

約一、〇〇〇、〇〇〇平方哩の地域が年雨量二〇インチ以上であるが、この地域の半分以上が南回歸線以北に位し、有色人労働がなくては開發しても利益はないのであつて、白人労働下では熱帯印度のこれと同様な條件下にある農業地とは到底競争は出来ないのである。

しかし牧羊に利用され得る地域は廣くまた多少牧畜に適する乾燥地域でも利用し得べき地が多いので、一、〇〇〇、〇〇〇平方哩以上の地域をこれに加へて見ても安全であらう。

第九七表 産業可能地域面積表(單位平方哩)

州名	白人の人口稠密な 居住可能地域	有色人の人口稠密な 居住可能地域	良好牧畜地
西オーストラリア	三三、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	二六五、〇〇〇
南オーストラリア	一五、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一八五、〇〇〇
クインズランド	八〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二三〇、〇〇〇
ニュー・サウス・ウエールズ	一一三、〇〇〇	—	一一三、〇〇〇
ヴァイクトリア	五二、〇〇〇	—	三六、〇〇〇
タスマニア	二六、〇〇〇	—	—
計	三一九、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	八二九、〇〇〇

濠洲産業の將來展望

濠洲の資源と植民問題

州名	年雨量一〇インチ以下の乾燥牧畜地域	無用砂漠	計
西オーストラリア	二三〇、〇〇〇	三二八、〇〇〇	九七六、〇〇〇
南オーストラリア	一〇六、〇〇〇	三九八、〇〇〇	九〇四、〇〇〇
クインズランド	一六〇、〇〇〇		六七〇、〇〇〇
ニュー・サウス・ウエールズ	八四、〇〇〇		三一〇、〇〇〇
ヴィクトリア			八八、〇〇〇
タスマニア			二六、〇〇〇
計	五八〇、〇〇〇	七二六、〇〇〇	二、九七四、〇〇〇
全面積に対する比率	一九・六	二四・六	一〇〇・〇

全面積に対する比率

一〇・七

一七・二

四〇二

二七・九

以上を要約すれば左の通りである。

乾燥地域四割四分

無用地域 二割四分五厘

内 悪気候の際無用地域 一割九分五厘

熱帯農業適地 一割七分（これはジャワの十倍の地域）

白人居住適地三割九分

内 良好なる牧畜地域 二割八分
良好な温帯農業地域 一割一分

結語

牧畜業及び農業以外に於いて濠洲の將來の發展上見のがすべからざる重要な要素は、東部石炭地帯に沿ふて當然起るべき製造工業であらう。

濠洲に於ては、現在、その内部乾燥地帯を色彩鮮明な花で圍んでゐるが、貯水池と乾燥地農業の發達は早晚必ずやこの花環を大きくするに相違ない。

思ふに北半球に棲息した白色人種は南半球を發見するや、その國固有の主人公たる有色人種を迫害殺戮し南半球固有の所有者であるが如くに振舞つてこれを開發して來たのである。その開發經營に當つて拂つた精神的苦心や物質的消費の代償を認めまた發見者の權利を認めることは當然としても、十六世紀にポルトガル人が南半球を發見して以來約五百年の長年月を経過してゐるにも拘らず、白人の南半球に定住するに至つた數は極めて微々たるものであつて、その人口の密度を印度、支那、日本等亞細亞民族のそれと比較すると非常な差異があり、南半球はまだ莫大な人口を收容し得るのである。それ故今後南半球殊に濠洲及びニュージールランドはその固有の土地に有り餘つてゐる人類即ち主として亞細亞人を入れてその土地を開發する義務があると同時に、かくして人類の交通不便な時代に生じた不自然の分布を矯正する必要があるのである。從來、南半球に生産された天然の資源は皆白人の獨占に歸してゐたのであるが、今や交通機關は發達し、人智は愈々進み、人類の欲求が益々擴大し、世

界人口は非常に増加したのであるから、人口の過剰をつけてゐる亞細亞民族をして南半球を利用すべきことは自然の歸結である。

殊に濠洲及びニュージーランドは地政學上から見ても、當然、大東亞共榮圈内に入るべきものであるから、この兩國をいつまでも白人の獨壇場とすべきではない。

元來、新大陸とか新植民地とか云ふのは白人から見るとの言葉であつて、白人移住以前既に天は有色人種をこの土地に定住させてゐたのであるから、全人類から見れば新大陸でも新植民地でもなく、特に白人の獨占を許すべきものではないのである。われわれは一日も早く萬難を排して大東亞共榮圈の實現に猛進しなければならない。これが大東亞の盟主と自他共に許す日本の義務であり責任でもある。

日本出版會承認
い430172號
(112053 照林堂)
濠洲の資源と植民問題



昭和十九年七月十日 初版印刷
昭和十九年七月十五日 初版發行

著者	宮田 峰一
發行者	東京都神田區駿河臺三丁目九番地 南條 初五郎
印刷者	東京都本郷區駒込曙町二番地 大野 治輔
配給元	東京都神田區淡路町二丁目九番地 日本出版配給株式會社

定價金 五圓
特別行爲稅相當額 三十二錢
合計金 五圓三十二錢

(三〇〇〇部)

發行所

東京都神田區駿河臺三丁目九番地

共立出版株式會社

代表者 南條 初五郎

會員番號 一〇七五二四
電話 神田 四一五一・二六二四

印刷所 二葉印刷所(東京129) 脇田製本

終